L241-4
L241
4

秩父郡所繫書目

関東古戦録
武蔵演路 八
武蔵国誌
武蔵名所考
武蔵野話 六
新編武蔵風土記稿 二百五十三本
鉢形合戦記
鉢形分限録
千葉系図

秩父根元記
秩父郡風土記
秩父記聞
秩父覚書
秩父名所寄集
武蔵七堂系図
秩父四通傳 五
武蔵志料 十二
武蔵風土記
武蔵郡村記

9772

武蔵郡名ニ村名

秩父郡旧事考

秩父郡

秩父根元記大野本本　東西二十里南北十五里南ハ甲州广坂峠北ハ榛沢郡末野東ハ高麗郡鎌倉坂西ハ上州耳糠郡山中領

古ヘハ国号なくて知し夫と書けり

旧事記国造本紀ハ知し夫国造瑞籠朝御世人意思命十世孫知し夫彦命定国造ニ

日書天神本紀ハ天下春命人意思命武蔵秩父国造知し夫ト書ヘキヲ秩父ト書ケルハ国造本紀の外伝脱ケしバナリ

景行天皇五十三年三月天皇東国ハ巡狩し給ヒシ時上総ニ

下黄和泉守殿窪八幡宮ハ今の社地秋元氏の城跡ト
云より西へ四五十歩ニテ上野と云耕地ニ上野八幡神社アリ是
旧城の守護神ニテ野窪八幡と云し
縁起字秋元氏伝記載セタル中に云々前書三年戊辰ニ
古城の下稲荷の傍ニ移テ窪宮此所ニウツシ本宮トアガメ
云々トアル窪宮上野字猪ヶ窪縁起ニ窪の宮と
とかうつしかと思ふ
叔父ニ神代上野より移りと云ふ
なりとも思ふ叔父社地ハ
古城跡なりも武地となりて年久しく高畑ニ云
者所有地なりし地ニハ初代人皇成務の氏神
ト云なりいせと云ふ是亦先人の作り始めし
歟紀十郎武綱ニ氏神と為て今に行る者の
ニ成ニ移地となりて同人ハ氏神と称して祭りしもの
墨書の風習ニ移ス中ハ又ハ移ス小祠ニ生行事たるを
同氏神と称スルニ上野ハ又秋元氏ニ生祖を祭りしやハ
ニテ武綱の居の田居のおほきなる故ニ十郎の城跡又武綱
ニ来りて移ハ久保ハ
移ちなり武綱窪神と
縁起字猪ヶ窪ハ今の宮上ニ城山の傍ニ有今もなき所ニ小社アリ
○移ス久保ニ移ハ守りと者アリトテ鶴見ト苗字スルモノ七軒二戸アリ
上野ハ城の追手ナリシトテ堀口ト称スル者七戸アリ

磐鹿六雁覓賀島ヲ捕ヘテ元邪志国造大多毛比知ヒ夫国造等ヲ喚
テ膳ヲ作リテ献ルベシ
天智天皇御宇元邪志胸刺知ヒ夫の三国を合て武蔵国と也
られ候知ヒ夫ハ一郡と云れ
又和銅の詔勅に依て知ヒ夫を改て秩父と云れ
続日本紀和銅六年五月甲子詔畿内七道諸国郡郷名着好
好ベシ
定書氏部或ハ諸国部内郡里等名並用二字必取嘉名
万葉集巻二十 助丁秩父郡大伴部少歳
倭名抄国郡部ハ秩父知ヒ夫
拾芥抄諸国郡数名部ハ武蔵国秩父
北条氏康武蔵野紀行天文十五年ハ秩父郡多ク大てゆ
山あり山ハ秩父なと申ハ
ベシ
又秩父の名の多く
名天仙菓
名義ハ万葉集ハ千茅生とあるを四字ハ千草千町田を
とゝ云ハ茅ハ茅草或茅ヲの茅なり
万葉集巻十四 東歌有千茅生人大伴部少歳ベシ
冠辞巻十 ちゝの実の俗ハ銀杏の古木ハ乳房の如きものなり
武蔵国秩父の郡と云も此木の多く生ル故郡名と云れ
云ハ当ハ郡中銀杏の天然生を云て銀杏ハ船来種なるべし

万葉集 巻十四 東歌有千葛生人大伴部少歳詠可之

秩父郡土記ハ秩父郡中村数八十三高勢万九千六百廿捨九石七

斗三合

三代実録貞観三年十二月武蔵国毎郡置検非違使一人

鎌倉大草紙 応永三十三年八月一日武蔵七党秩父ロヨリ乱入シ

按ハ応仁武鑑 三篇 武蔵七党 所謂七党横山党ハ多磨郡ニ小野氏

ニ猪俣党ハ那珂郡ニ小野氏野與党ハ足立郡ニ平氏村山党

ハ多磨郡ニ藤原氏 平氏 西党ハ多磨郡の西郡ニ日奉氏 児玉党

ハ児玉郡ニ藤原氏丹党ハ埼玉郡ニ丹治氏 其支流門ニ

ニ繁多ナリシ

甲陽軍鑑 巻三十七 北条氏改武州秩父ニ馬ヲ出ス

武徳編年集成 上 元亀元庚午年六月武田信玄上野国ヘ出馬

シ鎌倉の封内沼田ヘ乱入放火セシメ北條家の領内

武州の深谷忍秩父ヨリ相働キ上州真輪ニ至ル

郷名

和名抄国郡部ハ郷ニ巨香 美古 上断 美古 丹田 中村 番戸

とあり巨香ハ横瀬村ニ語歌あり云々

上断ハ寺畑村ニ植田あり

美古ハ[illegible]

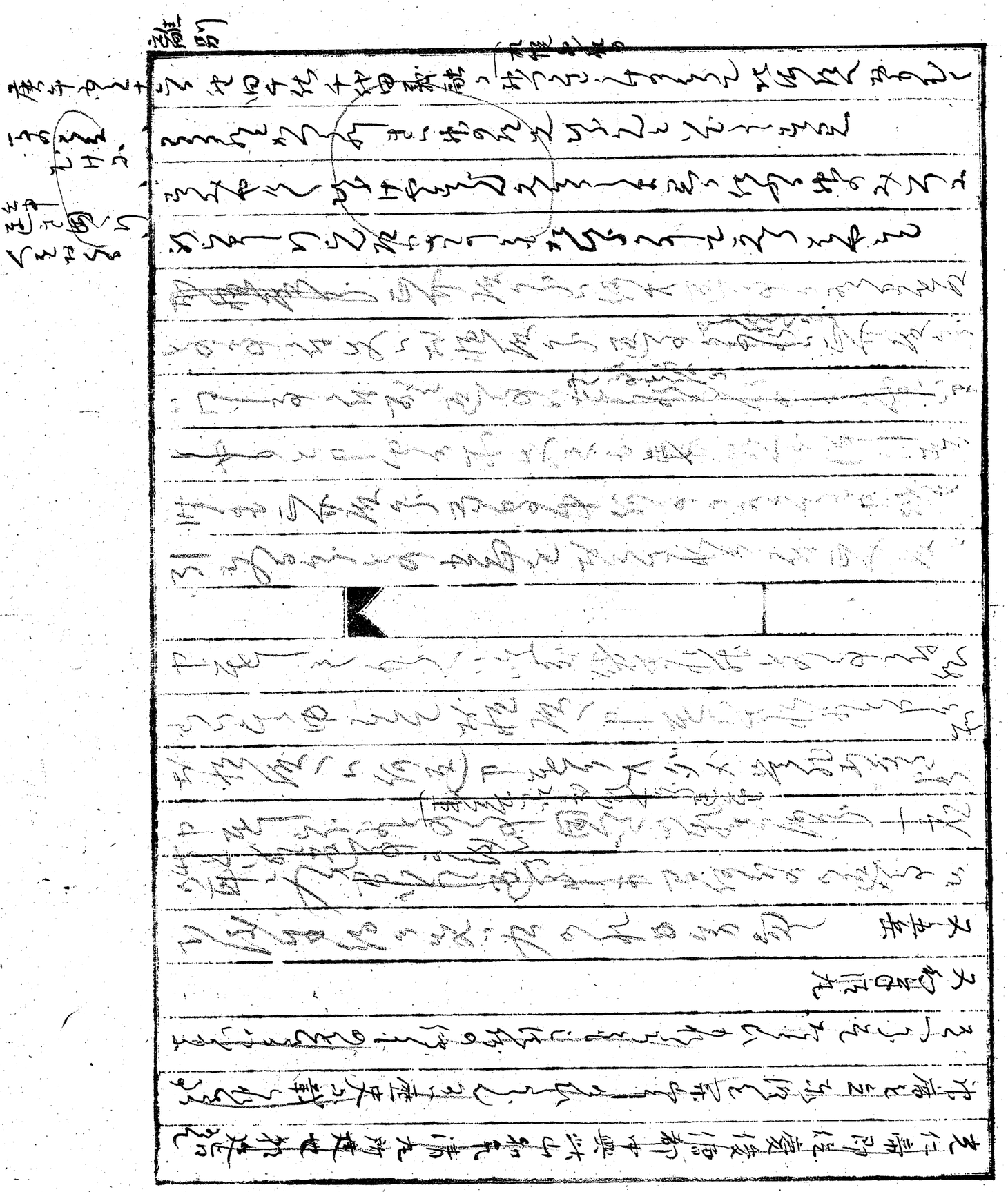
丹田ハ蒔田村ニ番田あり云々人名を地名ニ丹ハ云

ハとらゝゝアカと訓ず例を云々

中村ハ大宮郷の中名ニあり

餘戸ハ吉田村ニ番戸あり云々をバントウと訓アマリベシ訛

り[illegible]戸べをトと[illegible]云々



管見武鑑ニ秋文十六郷ト云フ今ノ在ノ如シ

郷庄領村秋文根之郷 秋文凡二記ス所載（梅竹本）

苅萱庄村三 矢那瀬村 凡布村 金尾

白鳥庄十三 野上（下郷） 中野上 本野上 藤谷川 金峰 金沢

大渕 野長（下ノ郷） 石間 三沢 下田野 井戸 岩間

矢畑庄十八 久永 矢納 下野沢 十日野沢 太田部 朱鋼

四阿屋 下岩間 上岩間 藤倉 日尾 飯田 三山 河原沢

下小磯野 上小磯野 御豆沢 薄 小森

多一田ヒ一ノ郷

武文庄

恒持庄

流ヒ文村 古墳川村 新大川村 古古院村 中野村

石井村 中野村

加持庄 加持ほか名領地 伊賀村小殿谷 小名

那文庄村九 長谷村 松尾村 田尾 野尾 恒持

那川領 神治本郷之乗ノ領地

右田村 恒川村 小松 小殿 小殿 苅田村

那野領 自語録

三川領 三沢村 古三川 小大郷 小三川村

三ノ郷 野尾村 恒持村 古文保村 今郷村

上河内村

恒持村 山田村 定尾村 横尾村 古郷 古郷 那尾村

郷二 田村ノ大宮ヒ

加持村二 上名畑村 乃郷村 乃郷村

那野領三村 南村 坂尾 古山村 西川村 北川村 佐原村 元文 佐文

三川領三村 平田村 古郷村

田村郷	蒔田村	寺尾村	栗谷村	大野原村	定峯村	栃谷村	山田村	彦久保村	横瀬村
藤谷淵村	小野上村	本野上村	矢那瀬村	野上下郷	風布村	金尾村	井戸村	下田野村	岩田村
小柱村	堀切村	伊古田村	品澤村	太田村	大淵村	下吉野澤村	矢納村	金澤村	金嵜村
伊豆澤村	小鹿野町	藤倉村	日尾村	太田部村	石間村	阿熊村	上吉野澤村	野巻村	久長村

大同手稿

イキル

一大河原村 奥沢村 大淵沢村 御堂村 [illegible]村 [illegible]村 坂本村之

一以上庄七領之内ニ村七十九

秩野郡領の名を吾那保ともいへり又は一郡の名にもなりし

今同郡新生お法恩寺年譜録に見る建治二年の条に武蔵

国吾那保之在家とあり又康永之宝治弘安康応等の条にも

吾那上下とありて保にはあらし

大草紙に嘉吉の比吾那修理亮と云ふあり此に住し人なる

一[illegible]

東和名抄の碑文に武州秩父郡吾那保[illegible]吾那保

の秩父郡のうちなる[illegible]

[illegible]

飯田村	久那樹	御堂村	阪戸村
三山村	小野原村	安戸村	北川村
河原澤村	白久村	與澤村	高山村
長留村	贄川村	大野村	阪戸西分
般若村	大滝村	押正村	南村
上影森村	三峯村	上名栗村	阪元村
下影森村	中津川村	下名栗村	南川村
別所村	阪本村	大宮郷	上宮田村
上田野村	白石村	三澤村	澤村
浦山村	皆谷村	皆野村	小森村
日野村	大内澤村	下宮田村	下流野村

武蔵根

むさし根と云武蔵ハ多麻郡御嶽本記ニ云往
又云秩父郡西郡ハ武甲山のふもとにあり記
万葉集巻
高 武蔵根乃 辛美祢見ヲ之志 紅涙れ迄之 仮寝
名ヲ気の安辛祢思 登之辰
蔓塩草ニ武蔵嶺元武蔵
宇治の宇角郡ニ秩父山の嶺ニ雪のふる山 武蔵根ニ雪
秩父山ニ
貝原氏の木曽路記ニ秩父山ハ武蔵峰ニ高山ニ江戸の
東北ニ見ゆる山なり仲の方にあり

[illegible]武蔵名所考に拾遺に武蔵嶺と称する所いれたりと可なり
知くうれをかなくあしてれと方角物に秩父山と云
なれに少くうれ所

一秩父山

一秩父の全部をさしていふこと全郡をも山をもさすこと

一村里に山の中にあるもの

一更級日記に長元年中常陸介ふるのいをさくうつりて居る日記

一ちゝ山の下をあるいて秩父山といふ山をくだりて行

宝久に甲州の郡のうち秩父郡と称する村のへひけ行と名づけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝永[illegible]の東路の行登[illegible]八月十[illegible]武蔵国[illegible]

[illegible]山の国[illegible]秩父山と[illegible]

[illegible]

[illegible]

各所方角[illegible]秩父山の嶽西の[illegible]山寺[illegible]狭山[illegible]各所

[illegible]武蔵根[illegible]秩父山[illegible]富士[illegible]

武甲山

武蔵演路巻五　武甲山を也[illegible]御嶽と云[illegible]如見山といふ[illegible]

山の[illegible]

武蔵野話三　秩父嶺ハ秩父山[illegible]

武甲山といひ[illegible]武蔵第一の山といふ意[illegible]甲の字を書[illegible]

[illegible]武蔵の武[illegible]を埋し泥を附會して甲の字を甲冑の意[illegible]

用ひ[illegible]按[illegible]武甲山ハ武[illegible]山の誤[illegible]秩山の西南荒川を界

東北達川を限[illegible]て坎中を武[illegible]

[illegible]の花園[illegible]

[illegible]ゆえ武[illegible]甲の字を用ゆ[illegible]誤[illegible]

麓より山上[illegible]約七十[illegible]あ[illegible]て山上[illegible]蔵王権現[illegible]社の

叢祠あ[illegible]傍に鐘あ[illegible]

愿以武州秩父郡横瀬郷秩父山金玉寺者年代深遠而仁五十二代
崛峨帝王輪言之勝地藏王権現鎮護之灵跡也云〻

加来製

荒川

隅田川の源流にして本郡の中央を流る

河越記 天文六年西 服作[illegible]

秩父の山[illegible]

宮崎池

[illegible]

大野原の宮崎と云地名数坊地の東方の山上に今孔池の形存也

[illegible]

此所勿見社の西地宮地の山の崎と云

夫水

池の水[illegible]宮崎の山[illegible]

献和銅

続日本紀巻四 元明天皇 和銅元年春正月己巳武蔵国秩父郡献和銅あ[illegible]て詔に東方武蔵国に自然作成和銅出在奏而献焉此物者天坐神地坐祇乃相宇豆奈比奉福波信奉事に依而顕久出多留宝に在羅之止奈母神随所念新須是以天地之神乃顕奉瑞宝に依而御世年号を改賜換賜波久止詔命を衆聞宣故改慶五年而和銅元年為而御世年号止定賜ふ[illegible]

[illegible]日本紀略に坊詔と出[illegible]（但富郡下秩父之字を四イ）又扶桑略記巻六に慶雲五年戊申正月十日改為和銅元年是依武蔵国秩父郡献

一 新和銅也 [illegible] 根ケ和銅を堀出す [illegible] 秩父の [illegible]
新編武蔵風土記稿に [illegible] 当村の [illegible]
山 [illegible] と云 [illegible] 銅山の形勢を [illegible] 東西にて巖石を聳
[illegible] 八九町盤回して [illegible] 巨岩仕に突兀して時立 [illegible] 真
色頗る黄色を帯びて銅色を含む往古鑿 [illegible] 鑿
岩の山を南北に堀尽して中断し巨巖東西に對立 中断せし
を今に和銅沢と [illegible] 又其 [illegible] 銅洗場 [illegible] 鉞
家 [illegible] 巨巖を中断して堀出 [illegible]
近潤 [illegible] 所 [illegible] 根ケ和銅出し銅及堀跡 [illegible]
[illegible] 名称も [illegible] 秩父

根元記 [illegible] 秩父風土記に金崎村元明天皇御宇和銅出し
金の元の村名 [illegible] 金沢村和銅出し金の沢の村名 [illegible] 金
尾村和銅出し金の尾の村名 [illegible] 宿論 [illegible]
[illegible] 秩父風土記の一本を [illegible]
金沢村鐘ケ嶽と [illegible] 鐘に金を [illegible]
[illegible] 金崎村金沢村に丈山 [illegible] 又金崎村の隣村に大渕 [illegible]
村 [illegible] 新編武蔵風土記稿に大渕村金定村の地の方山の中腹
[illegible] 荒川の縁通り金定往 [illegible] 仍金崎
村の隣村藤谷渕村に保倉山 [illegible] 秩父風土記一本に藤谷渕村保
倉山同神 金崎 藤谷渕三村に勝 [illegible] 新編武蔵風土記

[illegible] 金ケ嶽の山来 [illegible] 小村 [illegible] 流れ
[illegible] 所を流れ
川 [illegible] 金山川と
[illegible]

[illegible] 金沢村金ケ嶽に金沢
矢納下の野沢三村に跨
[illegible]

金峠村の内みの水ゝ桜ゝ保堂ゝ火変ゝ和銅の出しけるこゝ
を拾ゝる事ゝゝゝ又有名別の東の方荒川を隔て対岸
ゝ井戸村あゝ新編武蔵風土記稿ゝ井戸村岩金嶽岩穴六ヶ所金
嶽の麓ゝ四ヶ所城山の麓ゝ一ヶ所荒川端ゝ一ヶ所あゝ白鳥ノ窟ゝ
あゝゝ皆坑口ゝゝゝゝゝ金尾ゝ真山ゝゝゝ和銅を堀出し
ゝゝ此二所の金嶽ゝゝゝゝゝ

金定一星四方ゝ
散在ゝ

秩父牧

秩父牧のゝゝゝ義平官符ゝ八月十三日武蔵国秩父御牧御馬貢ゝ
ゝゝゝ新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ匹長馬寮式ゝ御牧武蔵国石川牧由比牧小川牧
三御牧ゝゝゝ秩父牧ゝのせゝ
本朝世記ゝ天慶四年八月十三日ゝ秩父御駒牧幸也而申匹疋
不幸進ゝ
続日本紀巻三ゝ天暦二年八月十三日ゝ今日武蔵秩父御
馬幸進天皇御仁寿殿覧之
中書ゝ天暦三年九月五日ゝ幸進武蔵国秩父御馬二十疋

同[illegible]ニ天徳元年八月十六日庚午今日武藏秩父御馬二十疋
仍天皇御仁寿殿覧之　　（幸進）
同書　同　応和元年八月九日庚戌武藏秩父御馬　幸進仍天皇
御南殿ニ
同書　巻十二　長元四年十二月十七日庚午ニ武藏秩父御馬
北山抄　巻一ニ年中要物　同　八月十三日辛酉武藏秩父御馬事二十
疋
同書　大臣以下賜御馬ニ　奏慶仍の条ニ応和二年八月二十
八日秩父御馬幸進又主殿寮進退留解文於仁寿殿御
御覧ニ

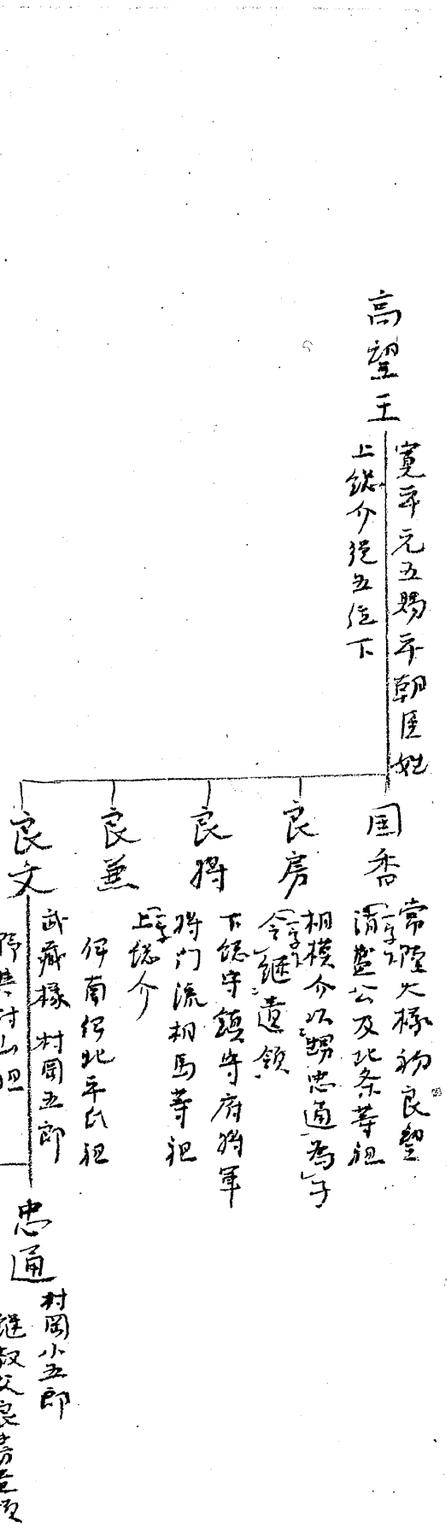
西宮記　巻六ニ秩父御馬　秩父御馬二十疋
（公事）
（牧）根元物の駒幸の条ニ秩父御馬二十疋
拾芥抄　牧名部ニ秩父牧
秩父根元記　文凡土記ニ牧二ヶ所野牧牧林ニあり
同書ニ野巻村公丁根元記ニ秩父駒[illegible]疋とあり牧の名所
ニ鎧倉ノ時ニ弘治の頃迄金納ニ成る今ハ其沙汰ナ
しニ牧を後ニ巻ニ書ニ[illegible]
同書ニ下ニ吉田村牧林秩父駒幸の名所ニあり
牧本郡御堂村ニ牧山あり　皆野村ニ牧野内あり　ニ牧の語ニ
ニ

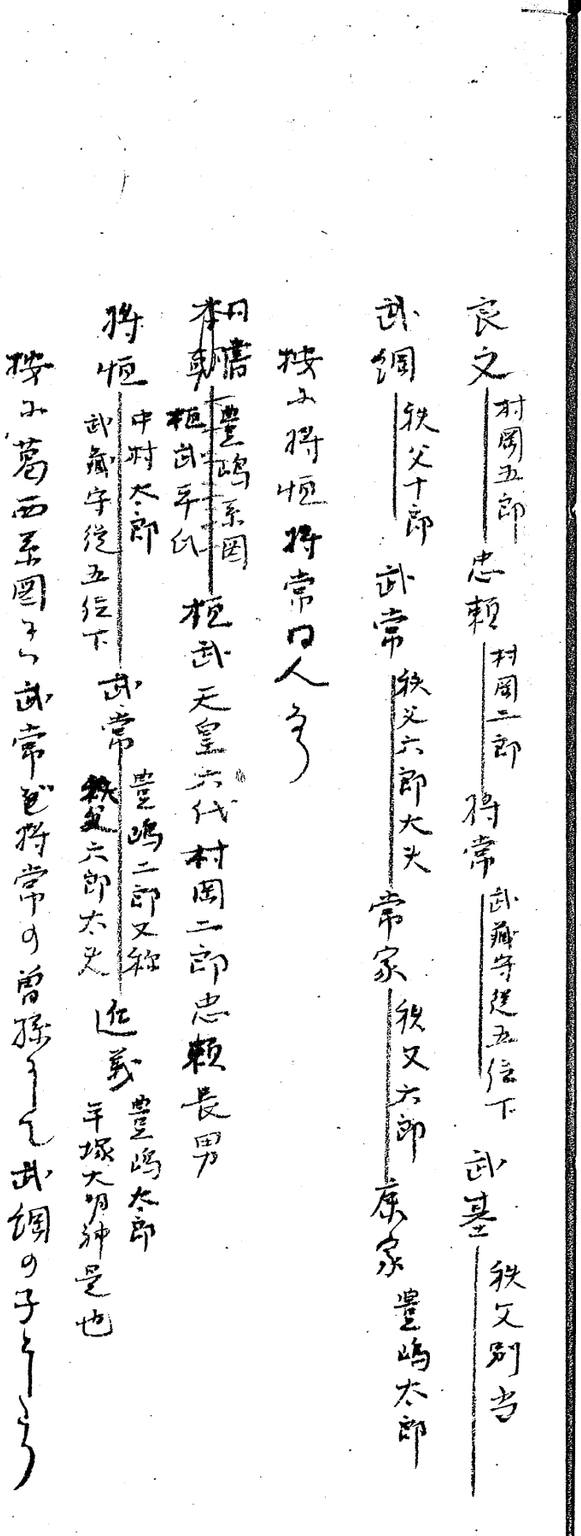
武蔵国小別当を置かるゝ　近来馬寮或は諸牧駒者毎年
九月十日国司典牧監若別当人等　信濃甲斐上野三国任牧監武蔵国任別当　臨牧按
仰共署其帳簡繋歯四歳已上可堪用者調良明年八月所牧
監等貢上するとあり　秩父氏此別当か補せらるゝか治承
養和の頃　秩父庄司別当重能あり

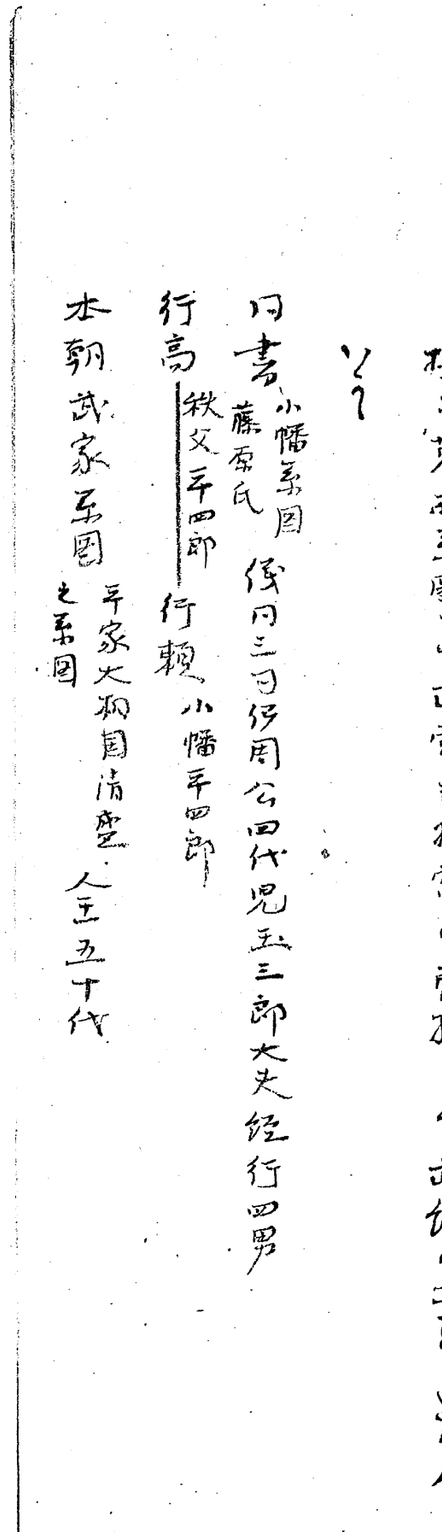
秩父氏

大系図　巻九之　平氏　葛原親王曾孫
武基　秩父別当　武綱　秩父十郎　重綱　秩父権守　重弘　秩父蔵人太夫
重能　秩父左司馬助　重忠　秩父庄司次郎　重保　秩父六郎
按ずるに武基は葛原親王の曾孫なるを五代の孫とす　又秩父庄司
次郎重能以下の秩父は誤なり　重能は男衾郡畠山
に移るべし　本朝武家図は畠山庄司重能畠山次郎重
忠とす

応仁武鑑残篇　三浦系図　桓武平氏　人皇五十代桓武天皇第三皇子葛
葛原親王　一品式部卿　母夫人多治比真宗　高見王　無官無位
延暦五丙寅生仁寿三六四薨六十八


高望王
寛平元五踏平朝臣姓
上総介従五位下
国香
常陸大掾初良望
清盛公及北条等祖
良茂
相模介以野忠通為子
今継遠領
良将
下総守鎮守府将軍
将門流相馬等祖
良兼
上総介
伊南行北平氏祖
良文
武蔵掾村岡五郎
野美村山祖
忠通
村岡小五郎
継叔父良茂遺領
忠頼
村岡二郎
野美等祖


円書
江戸系図
桓武平氏
桓武天皇五代村岡五郎良文二男
忠頼
村岡二郎
将恒
中村太郎
武基
秩父別当
武綱
秩父十郎
綱
秩父権守
童謡
江戸四郎
円書
葛西
桓武平氏
桓武天皇皇子葛原親王孫高望王男
良文
村岡五郎
忠頼
村岡二郎
将常
武蔵守従五位下
武基
秩父別当
武綱
秩父十郎
武常
秩父六郎大夫
常家
秩父六郎
庶家
豊嶋太郎


円書
桓武天皇六代村岡二郎忠頼長男
本朝
豊嶋系図
桓武平氏
将恒
中村太郎
武蔵守従五位下
武常
豊嶋二郎又称
秩父六郎太夫
近義
豊嶋太郎
平塚大明神是也
桜井葛西系図ヨリ武常ヲ将常ノ曾孫ニ武綱ノ子ニ
円書
小幡系図
藤原氏
俊円三日伊周公四代児玉三郎大夫経行四男
行高
秩父平四郎
行頼
小幡平四郎
本朝武家系図
平家大和国清盛
之系図
人王五十代

桓武天皇 諱山部号柏原帝 葛原親王 一品式部卿 高見王 無官

高望王 従五位下上総介 寛平元年初賜平姓 良望 常陸大掾 貞盛 若名平太 従五位上右馬助 常陸大掾 鎮守府将軍 平国香

国香 平家千葉之系図

桓武天皇三代高見王一男

高望王 従五位下上総介 初賜平姓 良兼 高望ノ三男上総介 鎮守府将軍 公雅 従四位下 武蔵守 致頼 平太史

致経 左衛門尉

致房 太郎伊豆加賀 鎮守府将軍

鎮守府将軍上総介良兼四代末孫左衛門尉致経五男

忠頼 村岡ノ五郎 奥州ト住ス 三浦先祖

忠常 千葉前上総介

国香 平家秩父之系図

将恒 武蔵国ニ住ス

秩父六郎

武基 秩父別当 武綱 従五位下伊豫守

武常 葛西

忠恒 奥州ト住ス 畠山小山田祖

将恒 秩父太郎 奥州ト住ス

致経 秩父武蔵ト住ス

宣綱 秩父摂守

宣家 秩父二郎 従五位下下野守

宣隆 秩父二郎大夫 能隆 葛貫別当

宣弘 秩父太郎 宣政 畠山左司 宣忠 畠山二郎

宣家 秩父平太大夫 宣国 秩父三郎 行綱 秩父武者四郎 行弘 秩父武者 弘成 秩父

秩父ハ将恒ノ致経ノ四男ニ当リ弘村岡五郎良文ノ孫ニ当リ前ニ引ク

忠仁武鑑三浦系図 江戸系図 葛西系図 豊嶋系図ヲ見テ知ル

猶将恒ヲ秩父六郎トセルモノ 忠仁武鑑 江戸系図 豊嶋系図

ハ中村太郎トアリ又 忠仁武鑑 武常ヲ武基ノ武常ヲ将恒ノ二男トス

嶋系図ニ将恒ノ記ハ誤 葛西系図ニ武綱ノ子トアリ

東鑑 巻二 治承五年秩父太郎重弘 探山重綱 男ニ

巻八 秩父三郎重清

巻十 建久元年秩父平太 按公雅男致頼ヲ基家男重家ニ当ル秩父平太史ト武家系図ノ千葉系図秩父系図ニ載ス

同巻
六五　兼久三年秩父平次五郎

同年秩父二郎太郎

同巻
三十二　嘉祐四年秩父左衛門太郎

同巻
四十四　建長六年秩父強五郎

甲陽軍鑑ニ　北条五代記ニ　関東兵乱記（鉢形）秩父新太郎

年岩本三河ノ上記秩父新太郎ノ印ヲシ後北条安房守ト云

鎌倉大草紙応永三十三年八月一日武蔵七党秩父ノ記入ヲ

結城戦場物語　永享十二年武蔵勢秩父平山畠山横股児玉ト先

ヲシテ云ヘリ

丹壷

丹壷ハ埼玉郡ノ内ニ昔ノ丹生ノ郷ニ流れ者郡ニ来住シテ

新編武蔵風土記稿ハ陽成天皇御宇多治比真人武信故有ト

當郡中ハ端ヤウノ年ヲ経テ帰ル多ク武信五代ノ孫武経当郡

中ハ来住シ秩父郡ニ領セリ後ノ従家ノ系図ハ見ヘタリ其人ノ四

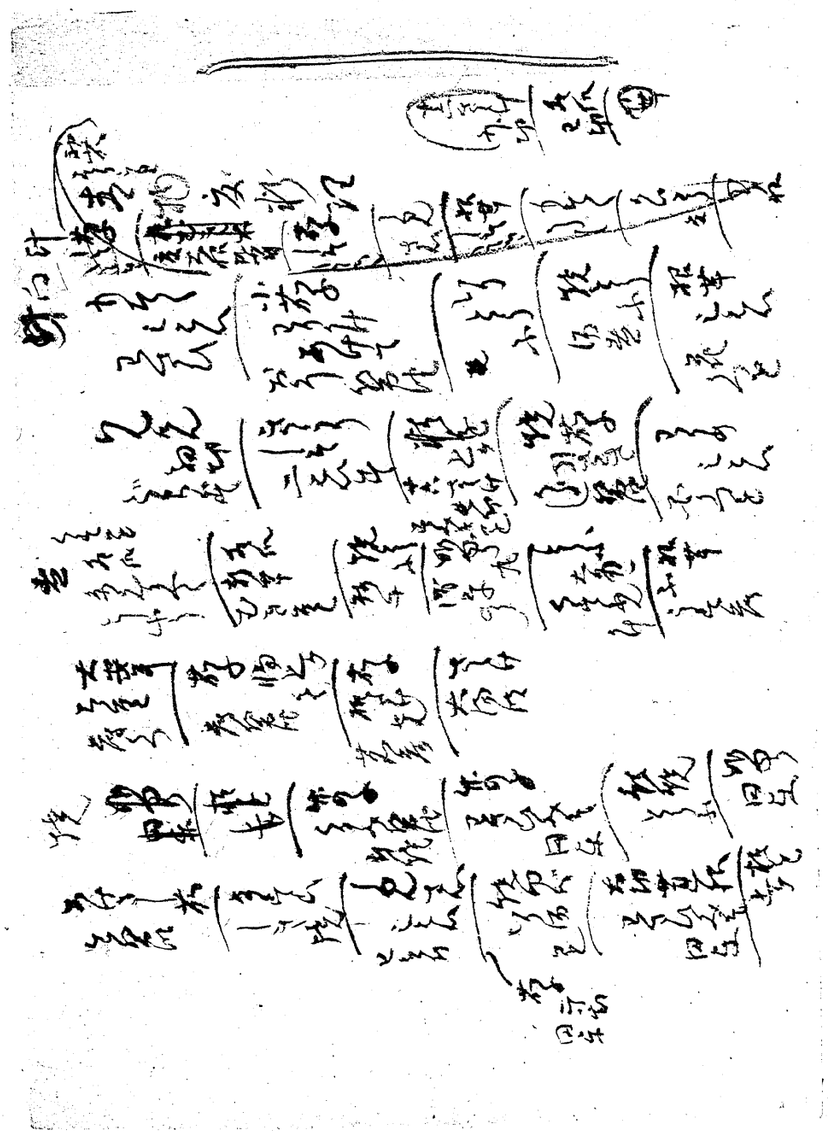
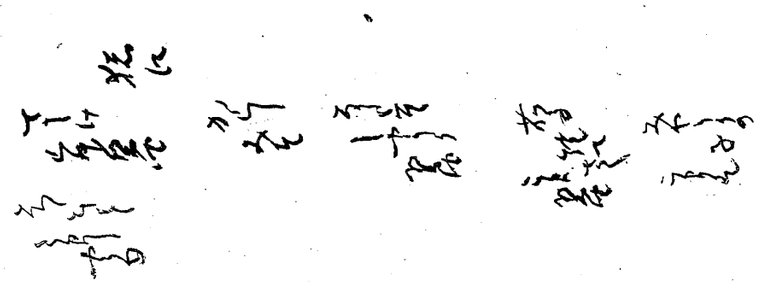
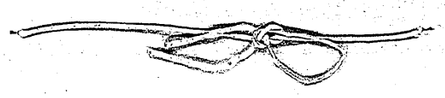
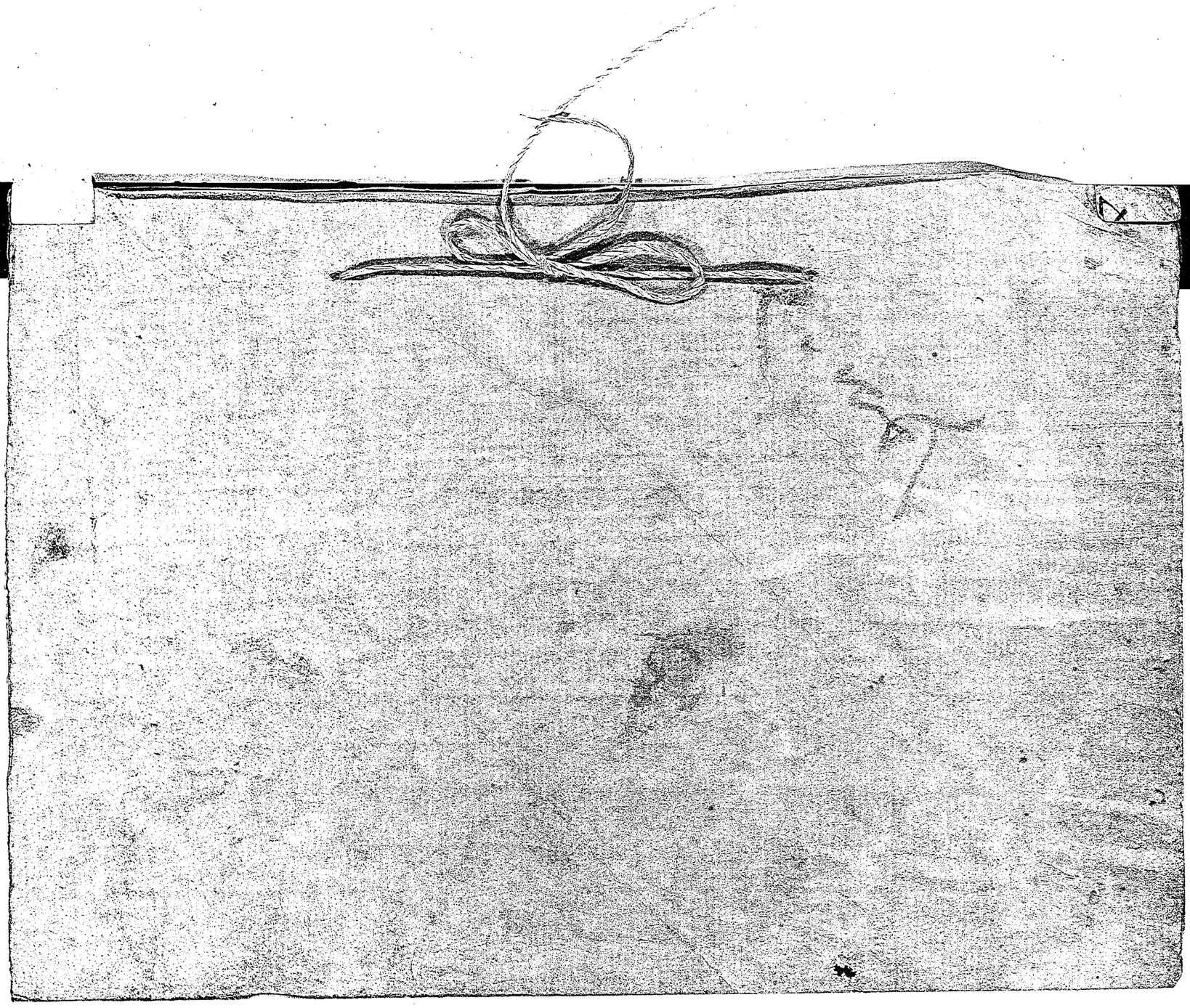
代ノ子孫ハ分流シテ薄、中村、黒沢、岩田、井戸、野上、白鳥、小鹿

野、藤矢淵等ノ丹ノ壷繁延シテ此条氏ノ属ヲ以テ傳領セ

リ

華族諸家傳皇別多治比真人ノ條黒田家ノ傳ハ宣化天皇

ノ皇子上殖葉皇子ノ孫多治比古王ノ四世後五位下今麻直規

三年武藏権介ニ任シ其男従五位下武信元慶三年秩父
検非違使ト云フ裔孫丹の宣ト称ス武藏国ニ蔓延セリ秩
父検非違使丹大夫武信七世孫秩父黒丹後基房ト云

華族諸家傳神別部布道宿禰の系譜ニ有道雄行武藏ニ下
リ児玉の軍團の貫首ト云フ其男之武藏国御牧別当ト
長い有別当大夫弘行ト云次ヲ平児玉有三別当経行ト云其
子孫ヲ児玉宣ト称ス有三経行の男秩父平太行重秩父権守
重綱の猶子ト云フ平氏ヲ冒ス云